

令和元年度新肥料展示ほ成績書(園芸作物用)

1 展示ほ設置肥料

肥料の名称： 葉活酢
 保証(含有)成分： 酢酸カルシウム 14%
 生産(依頼)業者： キューピー醸造株式会社

2 対象作物(品種)

作物名： カーネーション 品種名： マスター

3 担当者

普及センター名： 北淡路 担当普及員名： 石川順也
 連絡先： TEL 0799-62-0671 FAX 0799-62-2261

4 課題名と設置のねらい

課題名： 葉面散布カルシウム資材による葉先枯れ抑制効果の判定
 設置のねらい： 淡路島のような暖地カーネーション産地では6月に定植し、翌年5月の母の日に最終の開花盛期を合わせる作型が一般であるが、春先の温度の上昇と連動して出る葉先枯れはカルシウム欠乏と認識されており、当地で様々なカルシウム剤の散布が行われている。葉先枯れ抑制効果における既存剤との効果程度を判定する。

5 展示ほの内容

設置場所： 淡路市中田カーネーションハウス

土壌統群名 または土性	地目	ほ場の乾湿	設置条件	設置面積(a)
壤土	1 水田	乾	同一・隣接 その他()	合計： 2.4
	2 畑			展示区： 2.2
	3 樹園地			対照区： 0.2
	4 その他			

6 耕種概要

前作物	当該ほ場の慣行の土地利用体系	栽培方法		その他特記事項
		植付け方法	基肥施肥方法	
カーネーション	その他 (連作)	セル苗移植	全層施肥	畝の幅 90.0 cm 条数 6.0 条/畝 畝高さ 20 cm 植付方法 手植え その他

播種		移植		栽植密度			
区	播種日 (月/日)	区	移植日 (月/日)	区	条間 (cm)	株間 (cm)	1㎡あたり 本数(本)
展示区		展示区	10月10日	展示区	12.0	15.0	55.5
対照区		対照区	10月10日	対照区	12.0	15.0	55.5

※ 果樹の場合は播種、移植の欄は記入不要です。また、栽植密度は10aあたりの本数を記入してください。

有機質資材の施用				土づくり肥料(資材)の施用		
区	種類 (下表より選ぶ)	施用量 (kg/10a)	施用時期 (年/月)	名称 (商品名を記入)	施用量 (kg/10a)	施用時期 (年/月)
展示区						
対照区						

※稲わら等前作残渣をすき込む際は、該当資材を記載すること

有機質資材一覧

1 乾燥牛ふん 2 乾燥豚ふん 3 稲わら堆肥 4 生牛ふん 5 おがくず牛ふん堆肥 6 馬ふん堆肥
7 バーク堆肥(尿素) 8 バーク入り鶏ふん堆肥 9 もみがら堆肥 10 稲わら 11 もみがら 12 小麦わら
13 れんげすきこみ 14 ソルゴーすきこみ 15 その他()

その他特記事項:	
----------	--

7 施肥

区分	肥料名	保証成分(%)				追肥				成分量(10aあたり)			
						kg/10a				N kg	P ₂ O ₅ kg	K ₂ O kg	その他 kg
		2/21	2/28	3/7	3/14								
展示区	葉活酢				1.1	150.0	150.0	150.0	150.0	0.0	0.0	0.0	6.6
	Ca 3.4%を300倍で									0.0	0.0	0.0	0.0
										0.0	0.0	0.0	0.0
										0.0	0.0	0.0	0.0
										0.0	0.0	0.0	0.0
	合計									0.0	0.0	0.0	6.6
対照区	パフォームCa				0.8	200.0	200.0	200.0	200.0	0.0	0.0	0.0	6.4
	Ca 7.5%を1,000倍で									0.0	0.0	0.0	0.0
										0.0	0.0	0.0	0.0
										0.0	0.0	0.0	0.0
										0.0	0.0	0.0	0.0
	合計									0.0	0.0	0.0	6.4

(施肥に関する特記事項:)

8 展示ほ結果の概要と考察

カーネーション葉先枯れ抑制への散布効果は対照区で使用した剤とほぼ同程度の発生率であったので、効果はあったものと考えられる。
展示区における症状別、着位別の葉先の元素濃度を測定したところ、カルシウム、マグネシウムの濃度が上昇しており、特に上位葉へのカルシウム濃度を高めていたことから、間違いなくカルシウムの葉面散布の効果が出ている。
上位葉の先端葉枯れに関してはカリウムの欠乏の可能性がうかがわれた。

9 普及の可能性(今後の問題点)

評価	コメント(評価で2の場合は改良や検討を要する点、3の場合は具体的な理由を記入)
1 高い	「散布後気にはならなかったが、食酢のにおいがした。」との実施者の意見があった。
2 ある	
3 低い	
4 試験実施できず (その理由)	

(数字を○で囲む)

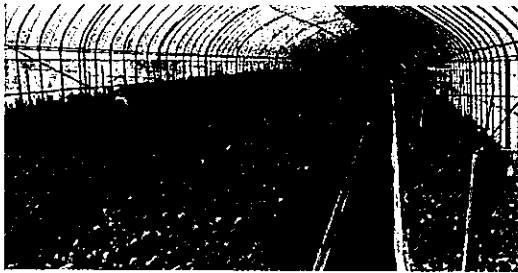
10 展示ほにおける具体的な数値(園芸作物用)

(1) 園芸作物生育・収量調査結果

上位葉先端葉枯れ発生株率(%)の推移

調査数(50株)

調査時期	4月12日	4月24日
展示区	7.2	14.8
対照区	7.4	14.0
比率	97.3	105.7



調査ほ場全景



上位葉先端葉枯れ症状

(2) その他

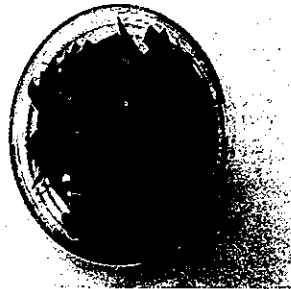
① 土壌分析結果

障害部位乾燥葉1Kg当たりにの元素濃度(ppm)

	Ca	K	Mg	Na
上位枯れ	2855.0	405.0	331.0	318.5
中位枯れ	1875.0	1295.0	210.5	501.0
正常葉	1870.0	1975.0	257.5	411.0



上位葉先端葉枯れ症状



中位葉先端葉枯れ症状



正常葉